

2006年3月期 (2005年度) 決算説明会



2006年5月17日
大正製薬株式会社
社長 上原 明

当社の現状と課題について



当社の現状

- セルフメディケーション事業・医薬事業ともに厳しい状況が続き、この2006年3月期を含め、ここ数期にわたって不本意な業績
- 次の成長に向けて
 - 変化をとらえ、チャンスを
例：医薬品販売制度（薬事法）の改正
 - 新規領域の強化
例：ヘルス&ビューティへの展開
 - 異業種を含めた他社との提携
 - オリジナル新薬の開発



当社の課題

セルフメディケーション事業

- 新製品育成
- 成長チャネル、既存有力チャネルに対する営業強化
- 売上高に占めるドリンク剤のウェイトが非常に高く、他の製品へのアテンションが下がってしまう傾向がでている

医薬事業

- クラリスに続く新製品の開発

2006年度の取り組み①



セルフメディケーション事業

- 営業体制の変更
 - 2005年4月に導入したゾーン制をさらに強化
 - 3営業本部体制へ
 - チャンネルの二極化に対応
 - 薬事法改正後の情報提供力強化をにらむ
(店頭でのコンサルティングが製品売上に影響；
メーカーからの情報提供がより重要になる)



営業体制の変更

セルフメディケーション事業グループ

ドリンク・チェーン
営業本部

OTC・チェーン
営業本部

ドラッグ
営業本部

H&B営業部

チェーン営業部

2006年度の取り組み①



セルフメディケーション事業

- 営業体制の変更
 - 2005年4月に導入したゾーン制をさらに強化
 - 3営業本部体制へ
 - 営業員の担当ブランド数を減らす
(ドリンク 7ブランド、OTC 10ブランド)
- 新製品の開発・育成
 - 今期投入予定の新製品
 - ドリンク剤
 - H&B(リビタ、通販)
 - スイッチOTCを含む新製品
- 新規取引先の拡大

2006年度の取り組み②



医薬事業

- 薬価改定ならびにクラリス後発品の影響を最小にするために
 - － 感染症領域への注力
 - クラリスの売上確保(ドライシロップ新製品発売予定)
 - 抗菌薬使用ガイドラインに基づくMR活動の強化
 - － 施設・Drの重点化と集中化
 - － 新製品の拡販強化(パルクス注ディスプレイ、スミル等)
- 2010年以降に向けたオリジナル新薬の開発
- 研究から臨床テーマへの移行による開発部門の強化
- 積極的な導入

2005年度業績と 2006年度業績予想

2005年度：損益の概要



	05年度実績 (億円)	前年比増減 (億円)		対計画 (億円)
売上高	2,714	▲80	▲3%	+24
営業利益	464	▲83	▲15%	+19
経常利益	497	▲83	▲14%	+22
当期純利益	359	+4	+1%	+19
EPS(円)	116.18	+4	+1%	+19

2005年度業績の背景



- ドリンク剤:特に薬系チャネルでの不振が続いた
- 風邪、インフルエンザの流行が当初見込みより低調に終わった
- (リアップレディを含めた)新製品の寄与が期待を下回った
- 花粉症が高水準だった前シーズンと比べて、流行しなかった
- 国内の医療用医薬品:抗菌薬市場は伸び悩んだが当社製品は健闘
- 医薬中間製品が増加
- クラリスロマイシンの米国での特許切れでロイヤルティが減少



国内市場の動向

セルフメディケーション事業

- 2005年度の大衆薬市場は前年比▲1%
4年連続のマイナス成長
- 薬効群では
 - ドリンク剤、総合感冒薬、水虫用薬、解熱鎮痛薬など
大半のカテゴリーがマイナスに
 - プラスになったのは、胃腸薬、毛髪用剤等
- 一方、特定保健用食品をはじめとする、周辺領域
は成長続く

医薬事業

- 医療用医薬品市場全体はプラス成長
ただし、抗菌薬市場は▲1% (IMSデータ: 薬価ベース)

売上高増減の要因



	前年比	
リポビタンシリーズ	▲37億円	第1四半期の不振響く
パブロンシリーズ	▲12億円	原料逼迫の影響、花粉症流行らず
リアップシリーズ	▲15億円	前期末に女性用初期出荷(20億円)
OTCその他	▲19億円	
リビタシリーズ	+3億円	グルコケア好調、新製品寄与
大正富山	+4億円	クラリス堅調、パルクス下げ止まる
ロイヤルティ	▲18億円	クラリスロマイシンの米国特許切れ 前年の49億円から31億円に
医薬中間製品等	+23億円	アボットジャパン向け増加



利益増減の要因

	前年比 (億円)
売上高増減	▲80
セルフメディケーション	▲86
医薬	+6
売上原価	+18
販管費	▲16
営業利益	▲83

原価増の要因

- ・ロイヤルティ↓
- ・医薬中間製品↑
- ・リアップ・パブロン等
高利益率ブランド↓

コスト抑制

- ・広告宣伝費 ▲11億円
- ・人件費 ▲7億円
- ・研究開発費 ▲1億円
- ・販促費 +3億円

- ・ 営業外収支は特に大きな変化なし
- ・ 特別損益として 関係会社株式売却益 85億円 計上



10月修正予想との差異

- 売上高の予想との差異の要因は表のとおり
 - － パブロンが予想を上回った
 - － 医薬中間製品が予想を上回った
- 利益：販管費が予想を下回った

売上高の予想との差異	対予想	
<セルフメディケーション>	+6億円	
パブロンシリーズ	+9億円	上期の遅れを下期に取り戻した
リアップシリーズ	▲5億円	女性用が4億円にとどまった
<医薬>	+18億円	
大正富山	▲3億円	風邪・インフルエンザが流行らず、クラリスが見込みを11億円下回った
医薬中間製品等	+23億円	アホットジャパン向け中間製品が予想を上回った

2006年度連結業績予想



2006年度も引き続き厳しい業績：2%減収、9%経常減益を予想

	06年度予想	前年比増減 (億円)	
売上高	2,660億円	▲54	▲2%
セルフメディケーション	1,754億円	+6	+0%
医薬	906億円	▲60	▲6%
営業利益	415億円	▲49	▲11%
経常利益	455億円	▲42	▲9%
当期純利益	275億円	▲84	▲23%
(参考)			
大正富山売上高	800億円	▲27	▲3%

2005年度との比較



- 売上高
 - － セルフメディケーション事業：＋6億円
 - － 医薬事業：▲60億円
 - 薬価改定(大正富山平均で▲6.6%)
 - クラリス後発品の影響 など
- 主な減益要因
 - － 薬価改定による仕切価ダウン
 - － ロイヤルティ減少(31億円→10億円 ▲21億円)
 - － 大正・サノフィ・アベンティス製薬株式売却の特別利益がなくなる
- 費用の動向
 - － 研究開発費は微増の見通し(235億円)
 - － 販促費、広告宣伝費：減少の見通し

2006年度業績予想の背景①



- セルフメディケーション事業

- ドリンク剤：営業体制変更と新製品により回復を目指す

- OTC薬：各ブランドのきめ細かい育成

- H&B事業

- リビタ新製品（4品目）

- デントウェルシリーズ強化

- 通販の取り扱い商品増加

- 3月に開始した通販は想定通りの進展

2006年度業績予想の背景②



● 医薬事業

- 薬価改定(大正富山平均▲6.6%)をカバーするため、営業の重点化・集中化をさらに進める
 - 施設、Drのターゲット明確化
 - 新発売品を絡めた炎症・免疫領域の強化
- クラリス後発品対策
 - 営業、マーケティング面での対応
 - 製剤:成人用小型化製剤に加え、小児用ドライシロップの製剤改良品を発売予定(4月に承認済み、6月発売予定)



研究開発

- 開発状況

- クラリスドライシロップ 製剤改良 4月承認
- T-3811 (ニュータイプのキノロン系抗菌薬)
申請準備中
- NT-702 米国でのフェーズ2終了
(良好な試験結果、POC得られた)
- 国内フェーズ2入り
 - TS-033 (糖尿病)
 - TS-022 (アトピー性皮膚炎)
- 今期臨床入りが見込まれるもの
複数あり(オリジナル、導入含む)

新薬パイプライン



パイプライン (2006年5月15日現在)

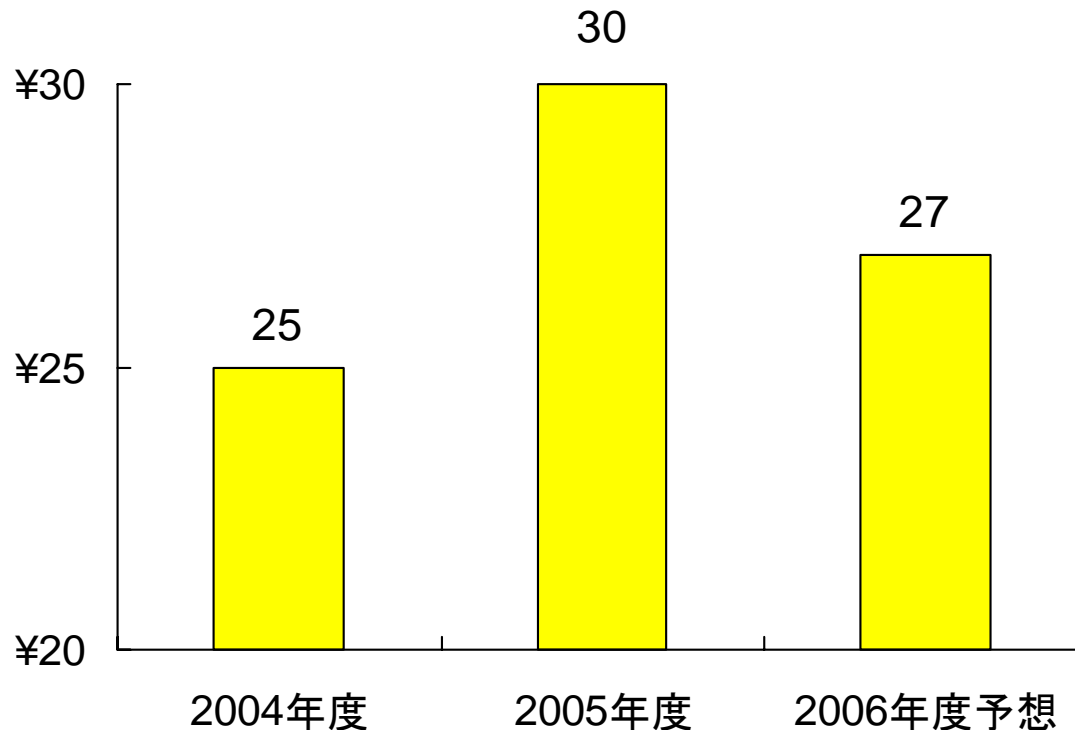
大正製薬 開発品

開発段階	製品名・開発コード	剤形	薬効・適応症	開発形態	オリジン	備考
発売準備中	クラリス	経口		アホットジャパン共同	大正製薬	製剤一変 ドライシロップ(小児用) の製剤改良
申請中	クラリス	経口	ラベプラゾール、アモキシシリンとの3剤併用による ヘリコバクター・ピロリ除菌	イーザイ、 アホットジャパン他共同	大正製薬	用法・用量変更
申請準備中	T-3811	経口	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	富山化学	
フェーズ2	NT-702 (海外:NM-702)	経口	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う 間歇性跛行 (閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	日産化学共同	日産化学	
	NT-702	経口	気管支喘息	日産化学共同	日産化学	
	TS-033	経口	1&2型糖尿病	自社	大正製薬	海外P2
	TS-022	外用	アトピー性皮膚炎	自社	大正製薬	
	パルクス	注射	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	大正製薬/三菱ウエルファーマ	適応追加
フェーズ1	TS-021	経口	2型糖尿病	自社	大正製薬	海外:導出 (イーライ・リリー社)
	TS-041	経口	うつ病・不安症	ヤンセン共同	大正製薬	海外
	TS-011	注射	脳梗塞急性期	自社	大正製薬	海外

株主還元



一株あたり配当金の推移



- 配当性向30% (単体: 特別利益除く) を継続
- 当面、成長のための投資を行う